

介護保険制度の背景と創設

1 介護保険制度創設の背景とその問題点

介護保険制度は、1997（平成9）年12月に成立して、2000（平成12）年4月から施行された。今後の高齢化の進展に伴い、介護を必要とする高齢者が急増する中で、従来の制度である老人福祉制度および老人保健制度では多様な高齢者ニーズに十分にえられるものでなかったことがあげられる。

老人福祉制度の問題点

- ・ サービス利用の権利保障が不十分
- ・ サービスの選択ができない
- ・ 所得調査等に対する利用者の心理的抵抗
- ・ 中高所得者にとって利用者負担が過重
- ・ サービス内容が画一的

老人保健制度の問題点

- ・ 介護を理由とする一般病院への長期入院（社会的入院）
- ・ 要介護高齢者にとっての病院の生活環境の不十分な面



<問題点の整理>

- ・ 老人福祉制度と老人医療制度が十分な関連ができないまま、個別に対応してきたために、様々な不便が生じていた。

【老人福祉制度】

- ・ サービス提供は措置として実施されていた。
- ・ 利用者本人の費用負担は、世帯の所得に応じた費用徴収の形式、応能負担がとられてきた。

【老人保健制度】

- ・ 病院等が高齢者の介護需要を引き受けていた実態である「社会的入院」があり、医療費の増大が指摘されてきた。